

2024年（令和六年） 6月28日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階  
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

## ■ 概況

当週（6月20日～26日）の国際石油市場は、パレスチナ紛争の拡大が懸念される中、米国の石油需要先行きの見方が交錯、反発と反落を繰り返したものの、概ね堅調に推移した。

NYのWTI原油先物市場は、20日、3日続伸の82.17ドルで始まり、連日反発と反落を繰り返し、80ドル台初めの水準で推移、26日、80.90ドルで終わった。

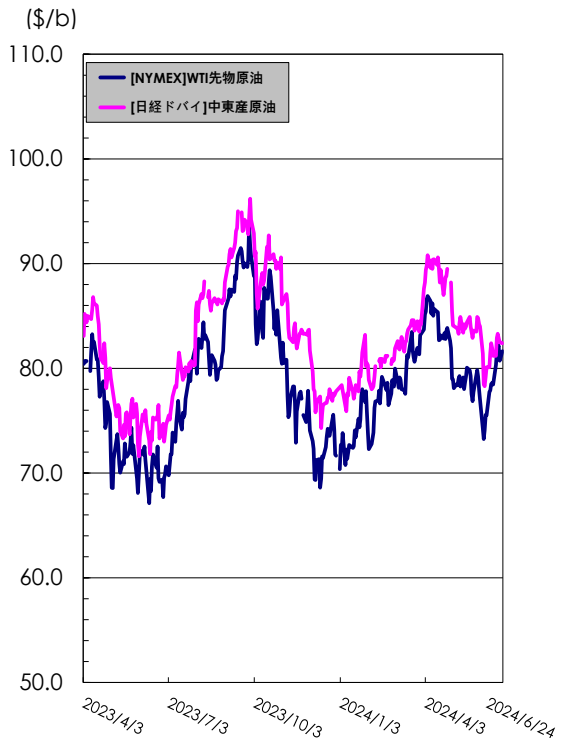
また、中東産パイ原油/東京市場（8月渡し）も、前週（6月13日～19日）81.20～83.30ドルの範囲で推移したが、当週は、6月20日82.90ドル、21日82.50ドル、24日82.40ドル、25日83.60ドル、26日82.90ドルと推移した。

対ドル為替レート（TTM）は前週（6月13～19日）156.89～157.96円の範囲で推移したが、当週は、6月20日158.16円、21日159.10円、24日159.88円、25日159.56円、26日159.78円となった。

そのような中で、6月24日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円高、軽油は同横ばい、灯油も同横ばい（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は174.8円と

なった。6月27日～7月3日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は25.8円（補助金がない場合の次週予想価格200.6円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は15.6円）となった。

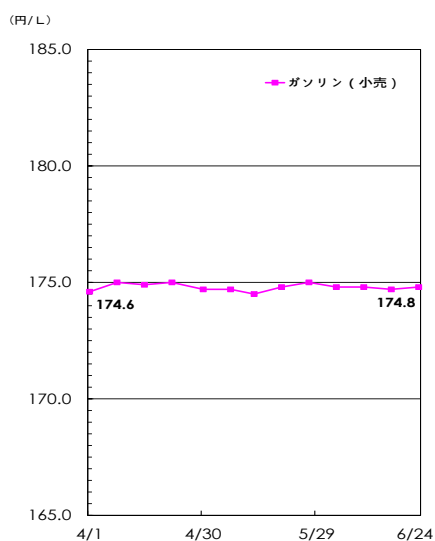
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/16～6/22	2,277 ▼-2	▼-
	トッパー稼働率 (%)	"	63.3 ▼-0.1	▼-
	原油在庫量 (千kl)	6/22	9,916 ▲58	▼-
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	6/24	82.40 ▲1.20	▲8.2
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	6/24	81.63 ▲1.30	▲12.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月下旬	88.95 ▼-0.02	▲2.50
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	86,922 ▼-545	▲13,312
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	155.36 ▲0.97	▼-19.99
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/24	160.88 ▼-2.35	▼-16.39



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	6/16 ~ 6/22	772 ▼ -28	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	738 ▼ -8	▼ -
	輸出	"	67 ▼ -28	▲ -
	在庫	6/22	1,840 ▼ -34	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 6/18 ~ 6/24	83.0 ➡ 0.0	▲ 4.0
		(TOCOM/中部) 6/24	82.5 ▲ 1.8	▲ 3.5
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 6/24	174.8 ▲ 0.1	▲ 3.8

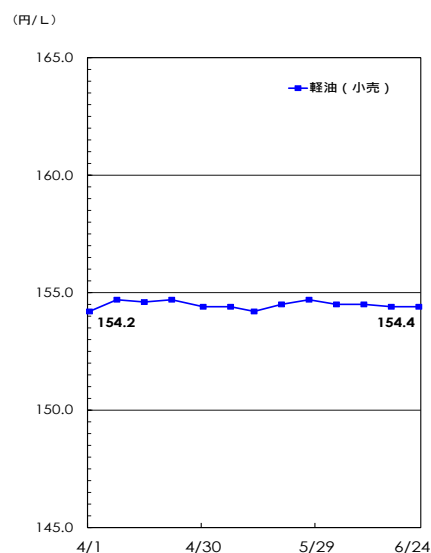
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

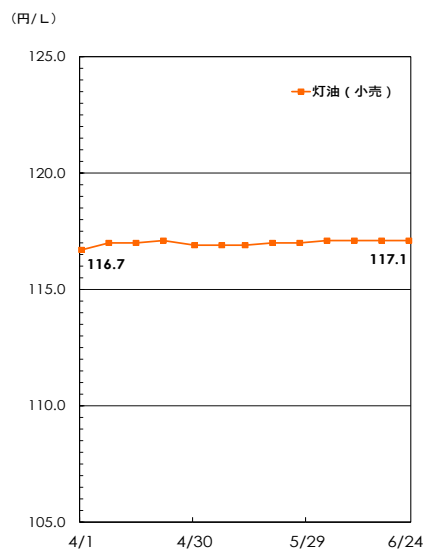
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	6/16 ~ 6/22	720 ▲ 67	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	537 ▼ -110	▲ -
	輸出	"	262 ▲ 234	▲ -
	在庫	6/22	1,561 ▼ -79	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 6/18 ~ 6/24	84.1 ▲ 0.2	▲ 2.8
		(TOCOM/中部) 6/24	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 6/24	154.4 ➡ 0.0	▲ 3.6

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	6/16 ~ 6/22	53 ▼ -31	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	61 ▲ 30	▲ -
	輸出	"	0 ➡ 0	▼ -
	在庫	6/22	1,695 ▼ -8	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 6/18 ~ 6/24	81.5 ➡ 0.0	▲ 2.3
		(TOCOM/中部) 6/24	83.0 ▲ 1.5	▲ 3.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 6/24	117.1 ➡ 0.0	▲ 4.6



■ 関連情報

1 海外/原油 (WTI原油先物市場)

前週(6/13~6/19)のNYMEX・WTI先物市場は78.45~81.57ドルの範囲で推移した。

当週、6月20日は、先週末の米国石油在庫が原油・ガソリンとも予想を上回る取り崩しで、ガソリン需要期入りに伴う、需要増加期待が高まるとともに、ガザ地区ラファの戦闘が激化する中、イスラエルによるレバノンのヒズボラ本格的攻撃が予想、紛争の中東全域への拡大が懸念され、3日続伸、4月下旬以来の高値を記録した。7月物終値は、前日比0.60ドル高の82.17ドル。

週末21日は、前日高値の反動、利益確定売りも見られ4日ぶり反落した。為替市場のドル高進行も原油先物の先高感で下落要因となった。ただ、米国の需要増加観測と中東の地政学リスクの高まりは下値を支えた。この日から中心限月となった8月物終値は、同0.56ドル安の80.73ドル。

週明け24日は、引き続き、イスラエルによるレバノンのヒズボラ攻撃が予想され、中東紛争拡大による産油国への波及が懸念されるとともに、米国のガソリン需要期入りの需要

増加期待に伴い、反発した。8月物終値は同0.90ドル高の81.63ドル。

25日は、米国連邦準備制度理事会(FRB)幹部から利下げへの慎重発言が相次ぎ、景気先行きへの懸念が広がり、反落した。8月物終値は、同0.80ドル安の80.83ドル。

26日は、イスラエルのヒズボラ攻撃が懸念される中、小幅に反発した。ただ、需要期入りにもかかわらず、米国の石油在庫統計が、原油・ガソリンとも予想外の積み増しとなったことで、上値は重かった。8月物終値は、同0.07ドル高の80.90ドル。

2 海外/米国石油市場

休日で一日遅れの6月20日発表の14日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油は前週比250万バレル減(市場予想:220万バレル減)、ガソリンも同減と、いずれも市場予測を上回る取り崩しで、需給の引き締めを感じさせるものであった。また、6月26日発表の21日時点の在庫統計は、原油は360万バレル増と市場予想(290万バレル減)に反する積み増し、ガソリンも270万バレル増と市場予想(100万バレル減)に反する積み増しだったことから、先行き需給の緩和を感じさせる結果であった。

EIAによると、6月24日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.3セント高の1ガロン3.438ドル(145.9円/ℓ)と2週連

続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比3.4セント高の1ガロン3.769ドル(160.0円/ℓ)と2週連続の値上がり。

ベーカー・ヒューズ社によると、6月21日時点で、前週比3基減の485基と4週連続で減少した。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年6月16日~6月22日に休止したトッパー能力は67.7万バレル/日で、前週に対して6.0万バレル/日減少した(全処理能力は323.0万バレル/日)。

原油処理量は227.7万klと、前週に比べ0.2万kl減少。前年に対しては26.2万klの減少。トッパー稼働率は63.3%と前週に対して0.1ポイントの減少、前年に対しては5.2ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/3.6%減、ジェット/35.2%増、灯油/37.0%減、軽油/10.3%増、A重油/5.9%減、C重油/29.8%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比横ばい)。軽油の輸出は26.2万kl(前週比23.4万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてジェット、灯油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではジェット、灯油、軽油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は73.8万kl(対前週1.0%減)と4週振りに減少した。ジェット7.3万kl(対前週34.2%増)、灯油6.1万kl(対前週93.0%増)、軽油53.7万kl(対前週17.1%減)、A重油16.5万kl(対前週7.9%減)、C重油10.0万kl(対前週12.4%減)。

(単位:千L)

	今週 (6/16 ~ 6/22)	前週 (6/9 ~ 6/15)	前週比
ガソリン	738	746	▼ -8 (-1%)
ジェット燃料	73	55	▲ 18 (33%)
灯油	61	31	▲ 30 (97%)
軽油	537	647	▼ -110 (-17%)
A重油	165	179	▼ -14 (-8%)
C重油	100	114	▼ -14 (-12%)
合計	1,674	1,772	▼ -98 (-6%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

## 4 国内/製品在庫量

ガソリンは184.0万kl、前週差3.4万kl減。前年に対しては21.5万kl多い。

灯油は169.5万kl、前週差0.8万kl減。前年に対しては20.2万kl多い。

軽油は156.1万kl、前週差7.9万kl減。前年に対しては14.0万kl多い。

A重油は75.1万kl、前週差0.2万kl増。前年に対しては5.1万kl多い。

C重油は183.1万kl、前週差6.1万kl増。前年に対しては9.7万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (6/22)	前週 (6/15)	前週比
ガソリン	1,840	1,874	▼ -34 (-2%)
ジェット燃料	756	756	▶ 0 (0%)
灯油	1,695	1,703	▼ -8 (-0%)
軽油	1,561	1,640	▼ -79 (-5%)
A重油	751	749	▲ 2 (0%)
C重油	1,831	1,770	▲ 61 (3%)
合計	8,434	8,492	▼ -58 (-0.7%)

## 5 国内/元売会社製品卸価格

6月18日～24日のドル建て中東原油価格は値上がり、為替レートも円安で、円建て輸入原油価格は値上がりし、元売会社の卸価格建値は値上げしたものと見られる。補助金は増額されたものの、6/27～7/3の実質卸価格は値上がりとなった模様。

## 6 国内/製品小売価格

6月24日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円高の174.8円、軽油は同横ばいの154.4円、灯油も18%ベースで同横ばいの117.1円(1%ベースでも横ばいの117.1円)。ガソリンは4週ぶりの値上がり、軽油も2週ぶりに値下がり止まり、灯油は3週連続の横ばいだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がり率が21道府県、横ばいは10県、値下がり率が16都府県だった。全国最安値は岩手県の168.5円、その次は愛知県の169.1円であった。他方、最高値は長野県の184.4円。最も値上がりしたのは佐賀県(同2.6円高)、最も値下がりしたのは沖縄県(同1.3円安)だった。

次回調査時(7/1)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (6/24)	前週 (6/17)	前週比	直近高値
レギュラー	174.8	174.7	▲ 0.1	23/9/4 186.5
灯油	117.1	117.1	▶ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	154.4	154.4	▶ 0.0	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。  
次回 (2024第13号) の公表は、7/5 (金) 14:00 です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

#### ④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。